（六）牛尾道（ハイキングコース）

古の平安人、鎌倉人が小山村を通って牛尾観音、石山観音詣をした道が、現在ハイキングコースになっています。山科駅から京阪バス20系統に乗車し、小山バス停下車。

53 法厳寺

奈良時代末の七七八年に延鎮によって創設されたと伝えられています。奈良小島寺に住んでいた延鎮は尊敬する行叡和尚を訪ねて音羽山に入り、和尚の履物が落ちていたので「この地でご往生されたに違いない」と思い、ここに仏寺を建立したのがこの寺です。本尊の十一面千手観音菩薩像は天智天皇の作、脇士の不動明王像、毘沙門天像は弘法大師の作と伝えられています。脇壇には行叡居士、延鎮法師の像が安置され、毎年四月と一〇月の一七日に「御開帳法会」が営まれ、本尊が公開されます。

法厳寺は「清水寺の奥ノ院」といわれます。寺の縁起によれば、平安時代、坂上田村麻呂が妻の病を治すために鹿の胆を求めてやって来た音羽山の山中で延鎮に出会い、殺生を諭されました。田村麻呂は自分の行いを恥じて、射止めた鹿を丁重に供養するとたちまち妻の病が全快しました。喜んだ田村麻呂はお礼に寺を建て寄進しました。そのお寺が清水寺とされています。

境内にある大杉（区民誇りの木）は寺の歴史の証人です。この杉は「天狗杉」とも呼ばれ、行叡和尚の履物が杉の下にあったことから、行叡和尚は音羽山の天狗だったといわれました。

54 牛尾山ハイキングコース

昔の面影がまだ残る小山から音羽川の渓流を遡って四季の自然の趣を味わえる山道です。途中には蛙岩、大師堂、弘法大師が修行したと伝えられる経岩、聴呪の滝、波切不動尊、音羽の滝、大蛇伝説の蛇壺など、いにしえを偲びながら寺の石段を昇ると法厳寺があります。

途中の桜馬場から尾根づたいに上醍醐寺へ続く道もあります。法厳寺の裏の山道から東海自然歩道を経てたどり着く音羽山（五九三m）からは、山科盆地、京都市街、琵琶湖、比叡、比良の山々が一望できます。

大蛇が住んでいたといわれている蛇壺。

55 白石神社

小山の外れにある白石神社は、伊弉諾尊と伊弉冉尊を祭神として八〇七年の創建といわれています。

御神体の白い巨岩があることから白石神社といわれました。

神社は一月にとんど焼き、六月にお百灯祭、一一月にお火焚祭が営まれ、小山の住民の信仰の支えとなっている産土神です。

境内には村の歴史を見守っていた大杉（区民誇りの木）があります。

56 明教寺

この寺は真宗西本願寺派に属し、山号を露山といいます。一四六九年、小山の郷士、中川喜平治が本願寺第七代存如上人に帰依し、当寺を建立しました。その子玄鎮は蓮如上人より名号や巻物、書付を受け、それらは寺の宝として伝わっています。

明教寺は牛尾山の山中に、慈覚大師円仁が建立した十住心院を小山の村に移してできた寺だといわれています。

この寺には数奇な運命をたどった「千手観音」の話が伝わっています。昔、山崩れ、洪水で本堂にあった「十一面観音像」が行方不明になりました。数年後、音羽川の下流の地で農民が見つけ、お堂を建てて安置しました。このお堂は後に東野の称名寺となり、（一九ページ参照）今も像は称名寺に安置されています。

明教寺の近くには、浄土真宗安楽寺や蓮如上人の孫の円如上人の墓があります。

57 京の田舎民具資料館

ここは、一九八七（昭和六二）年に近郊の農家の協力を得て子どもの学習教材、資料となる品々を集めて開設されたものです。

江戸時代に水争いを解決するために考えられた分水石をはじめ、京都の田舎で使われた衣食住に関する資料、仕事に使われた農機具、商いの道具など、江戸中期から一九六〇（昭和三五）年頃までの約五百種類、二千点が展示されています。

58 小山夜学校跡

一八七三～六（明治六～九）年頃に小山谷田町に東野校（山階小学校の前身）の分教場として、地域の子どもの初等教育の場となった建物です。今は、地域の集会所として、さまざまな行事に使われています。

59 二の講（二九）の行事

小山の地で行われる大蛇退治伝説にちなむ行事で、京都市無形民俗文化財（登録）となっています。

毎年二月九日に山仕事の安全と五穀豊穣を祈って地元の人たちが藁束で長さ一三m程の縄状の大蛇を編み、樒、榊、御幣を付けた足を胴体に吊るした後、御神酒や供物を供えて神事をします。縄の大蛇は住民の手により地域を練り歩き、音羽川の松の木に掛けられ一年間祀られます。この風習は現在伝承される数少ない「山の神行事」として貴重なものです。